

天皇陛下 即位の礼

「国民に寄り添い 象徴のつとめ果たす」



号外

詳しくは本紙と
ホームページで

Gate
ゲート

購読お申し込みは
フリーダイヤル ☎0120-510-374
または、お近くのプレスセンター(販売店)

天皇陛下が内外に即位を宣言する「即位礼正殿の儀」が22日午後、国事行為として皇居・宮殿で執り行われた。陛下は玉座「高御座」に立ち、「国民の幸せと世界の平和を常に願ひ、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います」と述べられた。

新憲法下で催された平成時の正殿の儀は、戦前の様式を倣ったことから、憲法が定める国民主権や政教分離の原則に反するとの強い批判が出たが、政府は今回も前回の様式を踏襲した。

台風19号の被害拡大を受け、パレード「祝賀御列の儀」は11月10日に延期された。

正殿の儀では、古式装束「黄櫨染袍」を着た陛下が、天孫降臨神話に由来する高御座に上り、即位を宣言。皇位のしるしとされる「三種の神器」のうち剣と璽(勾玉)が、国の印の「国璽」と天皇の印の「御璽」とともに高御座に置かれた。皇后さまは十二単姿で隣の「御帳台」に立った。

「即位礼正殿の儀」で、即位を宣言される
 天皇陛下は22日午後1時17分、宮殿・松の間